

価値創造とは
文化をよみとき
つくること

山内 裕



文化を読み取る(感じ取る)

文化とは自己表現であり、他者との関係に関わる。

人々の自己表現が、大きな価値となる。

文化をつくることが、価値を生み出す。

しかし、文化には権力が絡んでいる。

文化 culture

ラテン語の語源 *colere*

住む → *colonus* → colony

耕す → *cultura* → culture

拝む → *cultus* → cult

ウィリアムス, R. (2011). 『完訳キーワード辞典』 平凡社.

精神を耕す (17世紀)

the culture and manurance of minds

“ベーコン(1605)：精神の涵養と陶冶

a culture of their minds

“ホッブス (1651)：彼らの精神の養成 “

近代の「個人」が生まれたとき、「文化」が重要となる。

ウィリアムス, R. (2011). 『完訳キーワード辞典』 平凡社.

文化 culture ≈ 文明化 civilization

文明化・教化されていくプロセス。

ヨーロッパを頂点とする洗練され成熟したものの階層構造。

それ以外のものを野蛮と定義する—それにより自身を定義する。

アートは洗練されたセンスを表す。しかし洗練されていないものとは？

distinction

差異化=卓越化

人々は自らを他者と差異化し、それにより自らを卓越したものとして呈示する。

差異化=卓越化は、正統な文化を定義し、それを身に付けることによってなされる。

エリートの支配がより強化されていく。

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタクシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).



PITR

趣味 taste (en) = goût (fr)

必要趣味

←————— 大衆的

日常の必要性に関連するものを好む。
実質を重んじる。気楽。

自由趣味=贅沢趣味

←————— エリートの
(ブルジョワ的)

必要性から自由なものを好む。
形式を重んじる。禁欲的。

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタンスシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).

文化資本 高



文化資本 低

支配層

自由趣味

希少 - 緊張感の中のくつろぎ

被支配層

必要趣味

大衆的 - 気楽、ありのまま

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタンクシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).

文化資本 高



文化資本 低

支配層

被支配層

自由趣味

希少 - 緊張感の中のくつろぎ

だらしがない

必要趣味

大衆的 - 気楽、ありのまま

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタンクシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).

文化資本 高



文化資本 低

支配層

被支配層

自由趣味

希少 - 緊張感の中のくつろぎ

必要趣味

大衆的 - 気楽、ありのまま

これ見よがし

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタンクシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).

文化資本 高



文化資本 低

支配層

希少 - 緊張感の中のくつろぎ



中間層 (プチブル)

野心 - 上昇志向

被支配層

大衆的 - 気楽、ありのまま

ブルデュー, P. (1990) 『ディスタンクシオン』 藤原書店 (石井洋二郎訳).

omnivore

オムニボア = 雑食

エリートが、高級文化だけではなく、中間的なものや大衆的なものも好むようになった。

雑食になった。

そして、その傾向が強まっていることも確認された。

ブルデューは間違えていたのか？

Peterson, R. A. (2005). Problems in comparative research: The example of omnivorousness. *Poetics*, 33(5-6), 257-282.

現代のエリート

豪華なものではなく、シンプルなものを好む。

- 高級車ではなく、自転車に乗る。
- 大きな家ではなく、小さくても趣味のいい家に住む。
- 三つ星レストランではなく、自分で料理する。
など

一方で、形式的、観念的、国際的な、異文化的ものを好む傾向がある。

Holt, D. B. (1998). Does cultural capital structure american consumption? *Journal of Consumer Research*, 25(1), 1–25.

なぜ？

高級と大衆文化の差異は明確ではなくなった。

多くの人が高級文化にアクセスできるようになった。
陳腐になった高級文化をさらに否定することが必要となる。

スノッブであることは批判の対象となった。

60年代末に若いエリートが既存の秩序への意義申立を行った。
スノッブはクールではない。

複雑な差異化=卓越化

現在のエリートにとって、差異化=卓越化することは
クールではない。

一方で、クールであることを求めている以上、差異化=
卓越化している。

差異化=卓越化を否定する差異化=卓越化の実践を理解
しなければならない。

文化をよみとり、つくる

今回取り上げたエリートに限らず、
様々な領域の文化において

文化をつくることで、自己表現に結びついた価値を
生み出すことができる。

しかし、文化には権力が絡んでいる。

人文社会学を学び、文化を敏感に感じ取れるようになるう。